

第47回花の共進会において、最優秀賞に石上重徳氏。三八地域から2名入賞！

第47回青森県花の共進会において、石上重徳氏（八戸市）の白輪ギク「精の一世」が最優秀賞（農林水産大臣賞）、小嶋繁樹氏（三戸町）のディスプレイマム「ロサーノエリザベス」が金賞を受賞しました。

三八地域は県内でも花きの生産が盛んな地域であり、農業普及振興室としてもディスプレイマムや洋花類など消費者ニーズに合わせた品質の良い花き生産を支援していきます。



▲ 石上重徳氏 ▲ 受賞作品

三戸町初「あおもり土づくりの匠」認定！！

三戸町でトマト栽培をしている本木裕蔵氏が、三戸町初の「あおもり土づくりの匠」に認定されました。

有機質肥料を活用した土づくりにより、ハウスでの連作でも高い収量を維持していることが評価されました。



▲ 本木裕蔵氏 ▲ 認定証書授与式

新青年農業士 岩館りんご園 岩館岳氏（八戸市）

岩館岳氏は、八戸市是川地区で、りんご、梅、桃等の果樹と筍、山菜類の生産、販売を行っているほか、八戸市内や東京近郊のレストラン、洋菓子店、ベーカリーに食材としてりんごを提供しています。また、祖父の代から園地を幼稚園の散歩や遊び場として提供するなど地域の子供達とのふれあいを大切にしています。



▲ 岩館岳氏 ▲ 知事から認定証書を授与

無理のない作業で農作業事故に気をつけよう！

今年度の管内における農作業事故は、1月末現在で4件（前年度0件）発生し、そのうち2件はトラクターによるにんにく作業後の清掃時に発生しています。

特に、一人で作業している時の事故が目立つことから、一人作業の場合は、携帯電話を持参するとともに、あらかじめ行き先を伝えるようにすること、家族が必ず「どこで、何の作業を行うの？」と声掛けすることで、行き先を把握でき、帰りが遅いなど万が一の際の早期発見につながります。

また、普段から体調管理に留意し、健康診断を毎年受診するとともに、体調不良の時は休憩したり、決して無理な作業を行わないなどケガや事故のない安全な農作業を心掛けましょう。



その他、管内の農業・農村の動きや農業普及振興室の活動状況はこちらを御覧ください！
<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/sa-nosui/>

みどりの通信

令和2年度第3号

発行日：令和3年2月25日

〈三八地域県民局地域農林水産部〉
○農業普及振興室
〒039-1101 八戸市大字尻内町字鴨田7
TEL：0178-27-5111（代表）
TEL：0178-27-4444（直通）
FAX：0178-27-3323
○農業普及振興室分室
〒039-0134 三戸町同心町字同心町平54-7
TEL：0179-23-3264 FAX：0179-23-3274

J A八戸果樹総合部会プラム・プルーン専門部

全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞受賞

このたび、JA八戸果樹総合部会プラム・プルーン専門部が、第22回全国果樹技術・経営コンクールで、「全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞」を受賞しました。

同専門部は、りんごを中心におうとう、ぶどうなどを組み合わせた果樹複合経営地帯において、すももを主要な品目に成長させ、令和2年の販売額は約1億6千万円に達するなど、部員の所得向上や地域の活性化が図られたことが評価されました。

これまで、生産面では、早生種「大石早生」偏重から脱却するため、専門部独自に苗木助成等を実施し、品種構成の改善と園地若返りを進めてきたほか、栽培技術の向上や病虫害対策により生産量を拡大してきました。

販売面では、中・晩生種の導入により7～9月までの品種間リレー販売を確立するとともに、試食販売などの消費宣伝活動を行ってきました。

また、全国的にも類を見ない選果機導入による共選共販や早期精算を推進し、部員の出荷作業の軽減と品質の均一化、早期収入確保に取り組んできました。

今後もこれらの取組を強化・継続しながら、有望品種の作付拡大や商品化率の向上などを図り、「販売額2億円」の早期達成を目標とすることで、より一層の所得向上と地域農業の活性化が期待されます。



▲ 「サマーエンジェル」現地検討会



▲ 選果機による選果作業



▲ 目揃会で規格を徹底

「地域共生社会づくり推進セミナー」開催

1月26日(火)、きざん八戸(八戸市)において「地域共生社会づくり推進セミナー」を開催しました。

当日は、弘前大学大学院地域社会研究科客員研究員ただけがはら あさらの竹ヶ原公氏を講師に迎え、「事例から学ぼう！青森県型地域共生社会」と題して、地域共生社会の推進に向けた県内外の取組事例の紹介や地域活動に取り組む際の考え方等について御講演いただきました。

セミナーには、VIC・ウーマンや地域共生モデル実証者、関係機関など約40名が参加し、さまざまな活動事例を学んだことで、地域共生社会への取組に向けて、より理解が深まったようでした。

農業普及振興室では、今後も2025年の超高齢化社会を見据えた地域共生社会の実現に向けて、農山漁村女性リーダーを中心とした地域づくり活動を支援していきます。



▲ 密を避けるなど工夫してセミナーを開催



▲ 講師の竹ヶ原客員研究員

「農業者のためのGAP推進研修会」開催

昨年11月18日(水)に田子町中央公民館において「令和2年度青森県『農業者のためのGAP推進研修会』」を開催しました。

研修会は、茨城県つくば市の日本生産者GAP協会の田上氏を講師とし、GAP(農業生産工程管理)の概要に関する講義や、リスク発見のためのワークショップを行いました。

当日は、田子町が育成したオリジナル品種「美六姫(たっこ1号)」のブランド化に向けて組織された「美六姫生産者の会」を中心に15名が参加しました。今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンラインによる研修となり、参加者は普段とは違った研修方法に戸惑いながらも「ヨーロッパでは、GAPの取組がいつから行われているのか？」などの質問が出され、積極的な研修会となりました。

今回の研修内容を参考にGAPに取り組む生産者が増えるよう、今後も支援を継続していきます。



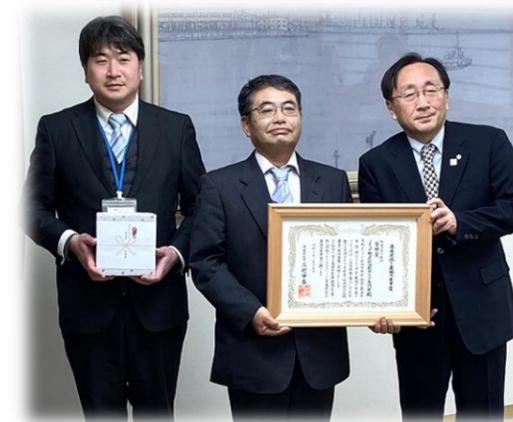
▲ オンラインによる研修

令和2年度「青森県攻めの農林水産業賞」収益力強化部門奨励賞受賞 ～JA八戸野菜総合部会ピーマン専門部～

このたび令和2年度「青森県攻めの農林水産業賞」の収益強化部門においてJA八戸野菜総合部会ピーマン専門部が奨励賞を受賞しました。同専門部がこれまで早出し栽培等出荷期間の拡大や、品質向上、出荷の工夫による単価アップ、新規作付者の確保等に取り組んできたことが評価され、今回の受賞となりました。

ピーマンは機械装備等の初期投資が少なく、所得が確保できることに加え、軽量であり体への負担が少ないため、最も取り組みやすい作物の一つです。

令和2年度の生産額は約6億5千万円と過去最高を記録しており、三八地域の基幹作物の一つとして、一層の産地拡大が期待されます。



▲ 三村知事から賞状を受け取る栂沢ピーマン専門部長(中央)、JA八戸北向指導員

田子町と連携したケーブルテレビによる指導を開始！

にんにく栽培が盛んな田子町では、コロナ禍の影響により昨春のJA主催の現地講習会が中止となるなど、栽培技術や経営の指導の機会が少なくなったことから、農業普及振興室では、田子町ケーブルテレビジョン(TCV)を活用した農業講座を放送しました。

この講座は、田子町とTCVの協力を得て、当室の担当職員が、モニターで写真やグラフを説明しながら栽培管理方法について指導したものです。

昨年は、にんにくを4月と5月の2回、スナップエンドウを5月に1回放送し、栽培管理や病害虫防除のポイントを中心に指導した結果、視聴者からは、「内容が分かりやすく、最新の情報を知ることができた」などの反応がありました。

また、好評であったことから、令和3年2月には冬期講座として、「たっこにんにく」産地の発展と農作業事故防止に関する内容で放送したほか、質問コーナーを設けて生産者とのコミュニケーションが図れるよう工夫をしました。

当室では、コロナ禍にあってもこのような活動を実践し、栽培技術のレベルアップのみならず、生産への意欲を盛り上げ産地の活性化へとつなげていきたいと考えていますので、生産者の皆さん、一緒にご協力をお願いします！



▲ 村上主査も初体験の収録



▲ 室長は原稿なしで20分間にわたり「思い」を力説！